

京都市生物多様性プラン（2021-2030）の評価指標の進捗状況（目標 1）

2030年目標	達成項目	評価指標（※1）	種類 （※2）	評価指標の考え方	★に対する評価指標 （候補）	目指す方向性 （※3）	実績値		目標値	指標区分	評価指標の「進捗状況の評価」の考え方 （案）に基づく評価（※4）		
							R3	R4	R4		指標の評価	達成項目の 評価	目標の評価
【目標1】 京都らしさを支える生物多 様性の持続可 能な利用を図 る	(1) 京都の文化 を支える生物資 源を持続的に利 用する。	「京都らしさ」を支える生物資源に関する指標★	成果指標	京都の伝統や文化を支える生物資源の利用状況を評価	鴨川のアユ遡上数	↗	17,198匹	29,070匹	27,931匹	②	A	B	A
		市内産チマキザサの利用量	成果指標	推進プロジェクトの一つであり、祇園祭の厄除け粽などの材料となるチマキザサの再生・利用に向けた取組の結果として、生物資源の持続可能な利用の状況を評価		↗	0枚	約7万枚	8.5万枚	②	B		
		「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数（累計）	活動指標	京都らしさを支えてきた生きものの保全、再生及び持続可能な利用の取組の進捗状況を評価		↗	236者	296者	355者	①	B		
		自然環境と調和した文化や暮らしが広がっていると感じている人の割合	成果指標	生物資源の持続可能な利用の取組による効果を主観的に評価		↗	38.0%	39.7%	—	⑤	D		
	(2) 自然が持つ 多様な機能を活 用して、都市の レジリエンスの 向上を図る。	自然共生サイトに関する評価指標★	成果指標	生物多様性の保全に貢献しつつ調整・供給などの生態系サービス機能を持った地域の量を包括的に評価	認定面積	↗	—	—	—	③		A	
		京都市域における二酸化炭素吸収量（森林、農地、緑地）	成果指標	二酸化炭素の吸収源となる森林、農地、緑地の整備状況を評価		↗	24.1万トン	— （集計中）	23.7万トン （※5）	②			
		雨庭の整備地点数（累計）	活動指標	自然環境が有する多様機能（水源涵養機能等）を活用するグリーンインフラである雨庭の整備に関する取組の進捗状況を評価		↗	8か所	11か所	—	③	A		
		親水性のある水辺空間の整備率	活動指標	水との共生に向けた良好な水環境実現を推進する取組の進捗状況を評価		↗	85.0%	86.4%	90.5%	①	B		
	(3) 生物多様性を 活用した持続 可能な観光を促 進する。	【観光客】自然・風景を経験した割合	成果指標	エコツーリズムにつながる自然を体験する観光の実施状況を評価		→	95.5%	95.1%	—	④	A	A	
		【事業者】「景観・環境」につながる行動を1つ以上の項目で積極的に取り組んでいる事業者の割合	成果指標	観光に関わる方による生物多様性や環境に配慮した行動の実施状況を評価		↗	57.1%	54.5%	57.1%	①	B		

※1 ★マークがついている評価指標は、現時点ではデータが存在しないものや、考え方のみで具体的な指標が決まっていないもの。なお、評価指標は今後より適切なものとなるように見直していく

※2 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※3 「/」は前年度に比べて増加・上昇を、「→」は維持を、「\」は減少・低下を目指しているもの

※4 資料3-1「評価指標の「進捗状況の評価」の考え方（案）」に基づく評価である

※5 2030年度温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）の達成に向けた当該年度の目安値

京都市生物多様性プラン（2021-2030）の評価指標の進捗状況（目標2）

2030年目標	達成項目	評価指標（※1）	種類 （※2）	評価指標の考え方	★に対する評価指標 （候補）	目指す方向性 （※3）	実績値		目標値	指標区分	評価指標の「進捗状況の評価」の考え方 （案）に基づく評価（※4）		
							R3	R4	R4		指標の評価	達成項目の 評価	目標の評価
【目標2】 生息・生育地 と種の多様性を 保全・回復 する。	(1) 多様な動植物が見られる重要な生息・生育地の環境を改善する。	重点保全地域における評価指標★	成果指標	生物多様性の観点から重要とされる地域における生態系の保全や回復の取組の進捗状況を評価	— （重点保全地域の考え方を検討中）	↗	—	—	—	—			
		自然共生サイトに関する評価指標★【再掲】	成果指標	多様な動植物が見られる生息・生育地の保全に取り組む地域の量を包括的に評価	認定面積	↗	—	—	—	③			
	(2) 里地里山の生物多様性の劣化を食い止め、回復を図る。	環境保全型農業取組面積★ （環境保全型農業直接支払交付金の取組面積）	成果指標	【農地】の観点として、農地の多面的機能発揮に向けた環境保全型農業の取組の進捗状況を評価（取組面積が把握できる事業について進捗把握）	— （環境保全型農業取組面積の把握方法等について検討中）	↗	811a	1,107a	—	—			
		間伐・保育等実施面積	活動指標			↗	206,05ha	185,74ha	—	③	C		
		三山森林景観保全・再生ガイドラインに基づく、市民等との協働による森づくり活動の回数（累計）	活動指標	【森林】の観点として、森林の多面的機能発揮に向けた取組の進捗状況を評価		↗	17回	28回	18回	①	A	B	
		野生鳥獣による農林産物被害額	成果指標	野生鳥獣との適切な距離を保ち、鳥獣被害を緩和するための取組の進捗状況を評価		↘	50,230千円	35,499千円	43,462.5千円	①	A		
		氾濫原の指標生物の発見数★	成果指標	【河川・農地】の観点として、氾濫原における生物多様性の状況を評価	ミナミメダカの発見数	↗	—	—	—	③			
		自然共生サイトに関する評価指標★【再掲】	成果指標	生物多様性の保全につながる地域の量を包括的に評価	認定面積	↗	—	—	—	③			
	(3) 種の絶滅を食い止める。	市内に生息・生育している京都府レッドデータブック掲載種のうち、絶滅の危険度のランクを下げた種数	成果指標	生息・生育地の保全・回復の取組等の結果として、希少種の生息・生育状況を評価		↗	46種	46種	—	③	C	B	
		「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数【再掲】	活動指標	京都らしさを支えてきた生きものの保全、再生及び持続可能な利用の取組の進捗状況を評価		↗	236者	296者	355者	①	B		
	(4) 生態系や人の健康、農林業に被害を及ぼす外来生物の拡大を防止するとともに、新たな定着を阻止する。	侵略的外来生物等の防除の取組件数	活動指標			↗	4件	7件	—	③	A		
		地域根絶が達成された件数（地点数）	成果指標	侵略的外来生物等の防除や市民の理解促進に向けた取組の進捗状況を評価		↗	0件	0件	—	③	C	B	
		新たな侵略的外来生物の定着確認数	成果指標			↘	—	—	—	③			
	(5) 河川におけるプラスチックごみによる汚染を大幅に削減する。	プラスチックごみを減らすために取り組んでいる人の割合（プラスチック以外の素材（紙など）のものを優先的に使用する、量り売りや裸売りの商品を優先的に購入しているなど）	成果指標	プラスチックごみの削減に寄与する、プラスチック代替製品への転換状況を主観的に評価		↗	74.3%	75.1%	—	⑤	B		
		プラスチックごみによる河川の汚染状況に関する客観指標★	成果指標	プラスチックごみによる河川の汚染状況を客観的に評価	淀川クリーン作戦で回収されるごみ量	↗	—	1,065袋	—	③			
	(6) 地球温暖化を緩和する。	京都市域の温室効果ガス排出量削減率	成果指標			↗	22.3%	— （集計中）	28.4% （※5）	②			
		京都市域における二酸化炭素吸収量（森林、農地、緑地）【再掲】	成果指標	地球温暖化の緩和に向けた取組による効果を評価		↗	24.1万トン	— （集計中）	23.7万トン （※5）	②			

※1 ★マークがついている評価指標は、現時点ではデータが存在しないものや、考え方のみで具体的な指標が決まっていないもの。なお、評価指標は今後より適切なものとなるように見直ししていく

※2 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※3 「/」は前年度に比べて増加・上昇を、「—」は維持を、「\」は減少・低下を目指しているもの

※4 資料3-1「評価指標の「進捗状況の評価」の考え方（案）」に基づく評価である

※5 2030年度温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）の達成に向けた当該年度の目安値

京都市生物多様性プラン（2021-2030）の評価指標の進捗状況（目標3）

2030年目標	達成項目	評価指標（※1）	種類（※2）	評価指標の考え方	★に対する評価指標（候補）	目指す方向性（※3）	実績値		目標値	指標区分	評価指標の「進捗状況の評価」の考え方（案）に基づく評価（※4）		
							R3	R4	R4		指標の評価	達成項目の評価	目標の評価
【目標3】生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を図る。	(1) 生物多様性に配慮した消費行動が広がっている。	「エシカル消費」の認知度	成果指標	生物多様性に配慮した製品やサービスの選択を含む「エシカル消費」の普及状況を主観的に評価		↗	17.0%	24.0%	30.0%	①	B	C	B
		エシカル消費対応商品に関する客観指標★	成果指標	生物多様性保全に関する認証ラベルの付いた商品の普及状況を客観的に評価	コープ商品のエシカル消費対応商品の売上額（京都市の人口/日本の人口）	↗	約23.6億円	約26.1億円	—	③	B		
		買い物をする時やサービスを利用する時に、エコマーク、省エネラベル、持続可能な森林経営、化学物質に頼らない食品などの環境ラベルを見て買う人の割合	成果指標	生物多様性に配慮した行動の普及状況を主観的に評価		↗	19.0%	16.6%	—	⑤	E		
	(2) 一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らしている。	暮らしの中で、自然を身近に感じる機会がある人の割合	成果指標	一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らしている状況の評価		↗	72.0%	72.3%	—	⑤	B	B	
	(3) 一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している。	暮らしや経済活動が多様な生きものから受ける恵みにより支えられていると感じている人の割合	成果指標	一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している状況の評価		↗	64.4%	65.6%	—	⑤	B	B	
	(4) 一人ひとりが生物多様性のために行動している。	暮らしの中で生物多様性に配慮している人の割合	成果指標	一人ひとりが生物多様性のために行動している状況の評価		↗	43.1%	40.4%	—	⑤	C	C	
		京の生物多様性担い手宣言制度の宣言数	成果指標	生物多様性の保全のために行動する人を増やし、継続的に行動を促す取組による効果を評価		↗	—	3,572件	12,500件	②	E		
		行動変容に関する指標（担い手宣言者の宣言後に実践した行動等）★	成果指標	京の生物多様性担い手宣言制度の宣言者による行動変容の状況の評価	—（アンケート調査の内容を検討中）	↗	—	—	—	③			
		環境保全活動プログラムの参加者数（うち自然共生がテーマのもののみ）	成果指標	生物多様性のために行動している状況の評価		↗	84,540名	144,988名	145,800名	②	B		

※1 ★マークがついている評価指標は、現時点ではデータが存在しないものや、考え方のみで具体的な指標が決まっていないもの。なお、評価指標は今後より適切なものとなるように見直していく

※2 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※3 「/」は前年度に比べて増加・上昇を、「—」は維持を、「\」は減少・低下を目指しているもの

※4 資料3-1「評価指標の「進捗状況の評価」の考え方（案）」に基づく評価である

京都市生物多様性プラン（2021-2030）の評価指標の進捗状況（目標 4）

2030年目標	達成項目	評価指標（※1）	種類 （※2）	評価指標の考え方	★に対する評価指標 （候補）	目指す方向性 （※3）	実績値		目標値	指標区分	評価指標の「進捗状況の評価」の考え方 （案）に基づく評価（※4）		
							R3	R4	R4		指標の評価	達成項目の 評価	目標の評価
【目標4】 社会変革に向 けた仕組みを 構築する。	(1) 生物多様性 に配慮した経済 活動を促進す る。	自然共生サイトに関する評価指標★【再掲】	成果指標	生物多様性の保全につながる地域の量を包 括的に評価	認定面積	↗	—	—	—	③		A	C
		TNFDの賛同団体数等	成果指標	企業における生物多様性に配慮した活動の 進捗状況の評価		↗	—	4団体	—	③			
		企業における認証制度の取得数 （ABINC、JHEP、SEGESなど）	成果指標	企業における生物多様性に配慮した活動の 進捗状況の評価		↗	3件	4件	—	③	A		
		「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト 認定制度」取組者数【再掲】	活動指標		↗	236者	296者	355者	①	B			
		竣工した公共施設におけるCASBEE京都 のAランク又はSランクの割合	活動指標	公共施設における生物多様性に配慮した取 組の進捗状況の評価		→	100%	100%	100%	①	A		
	(2) 生物多様性 保全のための活 動を支援する。	京の生物多様性担い手宣言制度 宣言数【再 掲】	成果指標	生物多様性の保全のために行動する人を増 やし、継続的に行動を促す取組の進捗状況を 評価		↗	—	3,572件	12,500件	②	E	C	
		ポータルサイト「京・生きものミュージア ム」における生物多様性保全活動に取り組む 団体の紹介数	活動指標	生物多様性の保全のために取り組む団体を 支援する取組の進捗状況の評価		↗	—	35団体	—	③			
		環境保全活動プログラムの参加者数 （うち自然共生がテーマのもののみ）【再 掲】	成果指標	生物多様性の保全のための活動の広がりの 進捗状況の評価		↗	84,540名	144,988名	145,800名	②	B		
	(3) 生物多様性 に関する情報の 集約・発信力を 強化する。	ポータルサイト「京・生きものミュージア ム」の閲覧者数	成果指標	生物多様性に関する情報の集約・発信する 取組の進捗状況及びその効果を評価		↗	—	26,257回	100,000回	②	E	C	
		SNSの閲覧数・いいね数	成果指標			↗	84,137件	899,153件	—	③	A		
		ポータルサイト「京・生きものミュージア ム」に掲載したイベント数	活動指標			↗	—	89件	—	③			
	(4) 生物多様性 の現状を把握す るための知見を 集積する。	京の生きもの生息調査 報告数	活動指標	市内の自然環境の現状を把握する取組の進 捗状況を把握		↗	618件	224件	1,000件	①	E	E	

※1 ★マークがついている評価指標は、現時点ではデータが存在しないものや、考え方のみで具体的な指標が決まっていないもの。なお、評価指標は今後より適切なものとなるように見直していく

※2 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※3 「/」は前年度に比べて増加・上昇を、「→」は維持を、「\」は減少・低下を目指しているもの

※4 資料3-1「評価指標の「進捗状況の評価」の考え方（案）」に基づく評価である